

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

兵庫県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	18歳の献血キャンペーン	県下の県立・私立高校在籍の内、3年生4.7万人	18歳の献血者数を4000人としたい(19年度3416人)
2	ともだち紹介カードキャンペーン	大学・専門学校献血時など	1500人
3	ハガキによる献血依頼	大学・専門学校献血時など	1500人
4	「献血ルームへ行こう！」キャンペーン	10.20代の献血者へ	2100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規・休眠献血協力企業・団体の確保	新規や一時中止献血協力企業・団体(の掘り起こし)	33団体
2	ロゴマークの提供	献血協力団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールはがきによる献血要請	複数回献血クラブ会員	随時応諾率 各20%以上
2	メールによる献血案内	複数回献血クラブ会員	年間12回以上
3	献血会場にてチラシリーフレットの配布	献血可能者	10000人以上
4	複数回献血クラブ会員募集はがきの送付	400mL・成分献血可能者	20000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキ・封書による献血依頼	前回400mL献血者	応諾献血者を16000人
2	400mL献血のみの献血会場の実施	主に街頭献血会場	県下移動会場で100カ所
3	所内イントラによる200mL受入れの抑制	すべての会場	供給必要量を鑑みながら、不要な200mLを抑制し、400率を92.8%にする

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ルームにおけるサービス	ルームにおける献血者	学生ボランティアとの連携によるハンドマッサージ等の献血者処遇
2	献血バス・ルームにおけるサービス	献血来場者	兵庫県栄養士会による栄養相談

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

奈良県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	高等学校、専門学校、短大、大学、団体	3回開催、参加100人
2	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者15,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施の企業・団体及び献血会場周辺企業等	24社新規登録
2	休眠事業所、団体の再開の働きかけ	休眠事業所、団体	12社登録
3	緊所要請可能な団体の確保	既献血団体及び少人数の企業・団体	協力団体5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,500人以上
3	事業所、団体の年間回数の増加	現在、年1回の事業所、団体	12ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	大学献血における400mL献血の推進	400mL献血可能者	県下大学、短大、専門学校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	予約制の推進	血小板成分献血者	予約率を確保本数の30%に引き上げる。
2	電話、はがきによる献血依頼	前回血小板成分献血者	予約率を確保本数の31%に引き上げる。
3	メール会員による献血依頼	前回血小板成分献血者	予約率を確保本数の32%に引き上げる。
4	イベント等の開催	献血希望者(センター・ルーム)	予約率を確保本数の33%に引き上げる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

和歌山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	学生献血推進協議会主催キャンペーン	大学生・専門学校生・一般人	協力者500人以上を目指す。
2	若年層対象のセミナー開催	大学生・専門学校生	5回の開催を予定 参加者500人以上
3	ハガキによる献血要請	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者数4、500人以上を目指す。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の開拓	献血協力未実施企業	新規登録10社を目指す。
2	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体による追加協力	動員・協力団体5社確保を目指す。
3	休眠企業・団体の開拓	過去5年以上献血未実施の企業・団体	再開拓5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話・ハガキによる献血要請	前回の献血から一定期間未献血者	応諾者数1,200人以上
2	企業における年間協力回数拡大	年間1回の献血協力事業所	10社の拡大を目指す
3	複数回会員へのメールでの献血要請	複数回献血クラブ会員	毎月1回以上の要請

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者(休眠献血者も含む)	上記複数回の対策に含まれる
2	高校献血での400mL献血の実施	卒業時の400mL献血可能な3年生	2校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話・ハガキによる協力依頼	前回より期間の空いている献血者	1人/日を目標に年間300人
2	成分献血協力依頼の啓発、推進	近隣事業所・団体	1人/週を目標に年間50人
3	全血献血者の成分献血への移行	当日来所の全血献血者	4人/週を目標に年間190人
4	イベント等の実施による啓発	既献血ルーム献血協力者	2人/週を目標に年間100人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

鳥取県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	研修、セミナーの開催	高校生・大学生	5回開催 参加150人
2	若年層献血キャンペーン	18歳から29歳の若者	期間中の10代20代の構成比32%以上
3	はがきによる献血依頼	18歳から29歳の成分献血、400mL献血	年間15,000人を目標。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	緊急要請可能な企業の確保	固定施設周辺企業	10社増加
2	休眠企業団体の配車の方法等の拡大	規模縮小により献血実施できなくなった企業、団体	30社
3	事前推進の徹底	献血協力団体	鳥取・倉吉・米子市内の献血協力団体100社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メール、はがきによる献血要請・イベント案内	複数回献血クラブ会員。	応諾者数300人以上
2	街頭献血におけるはがきによる依頼。	前回採血からの一定期間未献血者	応諾者数600人以上
3	企業への年間回数の増加	年1回実施企業。	10企業の増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	不足型別推進用資材の掲示。	全血献血希望者	街頭献血会場
2	400mL献血推進チラシの作成、企業事前配布。	全血献血希望者	全血献血協力企業
3	はがきによる依頼。	400mL献血希望者	③複数回献血者確保対策に含まれる。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	午前中の献血者確保	固定施設血小板献血者	午前中の平均受入数10人を13人まで増加する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

島根県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	夏休み小学生親子血液センター見学会	小学生	6回、200人
2	大学・高専の若年層献血セミナーの実施	大学生、高専生、その他若年層	2回、500人
3	高校での献血出前教室の実施	高校生	2回、150人
4	高校、専門学校、短大、大学での学内献血の実施	高校3年生、専門学校生、短大生、大学生	高校20校、専門学校・短大・大学各2回以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	協賛企業の募集	協力企業	10社新規登録
2	協賛団体の募集	学生献血推進サークル、ライオンズクラブ	5団体新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	未加入の献血経験者	300人
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)700人以上
3	ハガキによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
4	複数回献血クラブ感謝の集いの実施	複数回献血クラブ会員	1回(400人)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	移動採血は400mL限定で実施	事業所、各種団体、高校、専門学校、短大、大学	配車台数400台

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岡山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	学生献血推進ボランティア組織への加盟校参加促進	大学、短大、専門学校の学生	新規参加2校の確保
2	運転免許センターへの移動採血	18歳～29歳の新規運転免許取得者等	1,600人
3	学生献血推進ボランティア組織の研修会開催	学生献血推進ボランティア	1回
4	大学・専門学校等血液センター見学体験研修	学生	8校、250人
5	夏休み小学生親子体験教室	小学生とその親	700人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規・休眠献血協力企業・団体の確保	献血未実施・休眠及び献血会場周辺の企業・団体等	5団体登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	10件
2	はがきによる献血要請	献血者	1000件
3	実施場所(企業・団体・街頭)の年間回数の増加	年1回の献血実施企業・団体・街頭	3会場
4	複数回献血クラブ会員の増加	献血者	2000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時の推進資材の設置	全血献血希望者	街頭献血会場に設置
2	実施場所(企業・団体)の実施時期の精査	年2回以上の協力企業・団体	400mL献血の献血間隔を考慮した献血目標の策定

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

広島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血セミナー実施	短大・大学生	2回実施 参加150名
2	大学(短大含む)・専門学校・高校献血の実施	大学生(短大生含む)、専門学校生、高校生	移動献血での献血者数:4,200名
3	高校卒業予定者へのリーフレット配布	高校生(卒業予定者)	26,000部配布
4	親子献血教室	小学校中・高学年	10回実施参加500名(新たに出張教室実施)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	献血未実施団体および献血会場周辺企業	新規献血団体10団体確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血者・血小板献血者	要請者数:25,000人
2	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	不足時にリアルタイムに要請

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	移動献血における前回400mL献血者	要請者数2万人(上記③に含まれる。)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山口県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	15回開催 参加者数 500名以上
2	はがき・電話による協力要請	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数20,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び献血会場周辺企業、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、商工会連合会(青年部)等	20
2	緊急時要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等による献血実施できなくなった企業・団体	26
3	成分献血協力団体の拡大	既献血協力団体及び近隣企業、個人	30

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員に対しメールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員(1,100名)	応諾者数(実協力者数)300名
	複数回献血クラブ「チーム35」情報パンフレット作成	献血者・事業所・行政機関	作成枚数:40,000枚
2	県・市町職員献血協力者名簿の活用	県・市町職員献血協力者名簿提出者に対する協力要請	応諾者数(実協力者数)700名
3	はがき・電話による協力要請	前回採血から一定期間未献血者	年間 30,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	献血会場啓発資材の活用(広報用テープ・400mL必要本数たて看板・のぼり等)	献血会場(地域・街頭献血)	全献血会場に設置
2	はがき・電話による依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数実施時期の等の精査	年間2回実施会場から3回へ	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	5校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	DM・電話による献血依頼	既血小板成分献血者	4人/日を目標 年間:2,500人
2	近隣献血団体へ定期的な献血依頼	成分献血可能者	180団体で年間:3,400人
3	年間を通してのキャンペーン実施(マスメディアとタイアップしたイベント企画)	既血小板成分献血者	キャンペーン展開により18,40人 血小板成分献血者確保



平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

徳島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	夏休み親子献血セミナー	小学校(4～6年生)と保護者	4回開催(参加者200名)
2	JRC献血セミナー	県下JRCメンバー	1回開催
3	学内献血パネル展	県内3大学	6回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺事業所	新規登録(5事業所)
2	休眠企業の掘り起こし	過去に実績のある企業	10事業所確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	複数回メールクラブ会員登録の増加事業	新規登録者	新規登録者500人以上
2	メールによる献血要請	複数回メールクラブ会員	応諾者数(実献血延協力数)1000人以上
3	ハガキによる献血要請	400mL・成分献血者	1000通/月発送、応諾率18%、2000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼(移動採血巡回場所)	前回実施市町村での400mL献血協力者	600通/月の発送、応諾率30% 献血者数2200人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

香川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校生街頭献血キャンペーン	高校生	年2回 50名
2	施設見学	小中学生	年3回 150名
3	献血セミナー開催	大学・専門学校・高等学校	年5回 300名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼働50人以上
2	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)
3	休眠企業の掘り起こし	数年間、献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがき・電話による依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがき・電話・メールによる依頼	400mL献血可能者	移動採血車の献血実施場所における前回献血者

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	平日の献血者増	全献血者	2人/日増を目標とする。
2	次回の予約推進	成分献血者	6人/日増を目標とする。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

愛媛県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	大学学内献血時に各サークルに協力依頼	大学生	献血者協力者の10%増加
2	大学・専門学校の学内献血実施回数の増加	在校生	年間大学3回、専門学校2回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	男性職員が大半を占める事業所は年3回の献血を実施する	男性の多い事業所	40事業所

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	チラシ等により採血現場で職員が直接勧誘しクラブ会員の登録推進	全献血者	現在会員数1,512人+1,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	200mLについては必要本数のみルームで確保し、移動採血車では全て400mL	全献血者	現行どおり
2	高校での400mL献血実施	高校生	私立校1校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	緊急血液不足時にラジオ生番組で放送依頼する。	県内全域	

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

高知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	若年者献血キャンペーン	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数400人以上
2	大学・専門学校献血の強化	大学生・専門学校生	協力者数3000人以上
3	セミナー開催	小学生	参加者100名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の見直し	献血未実施および献血会場周辺企業	新規も含め10社登録
2	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム周辺の少人数の事業所	3事業所増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回メールクラブ会員	応諾率33.0%
2	メールクラブ会員募集ファイルの新規作成	400mL・成分献血協力者	登録者500名増加
3	献血実施場所の年間回数の増加	大学・短期大学	年間200名増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に持参
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	
3	400mL献血推進チラシの作成	全血献血希望者	全献血会場に持参

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の予約推進	血小板成分献血者	10人/月を目標に120人を確保する。
2	電話による献血依頼	血小板成分献血者	”
3	午前中の献血者確保	全献血者	午前中の平均受付数10人を15人までに増加させる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血応援	大学生	平成20年度並み
2	学生献血推進協議会加盟促進	大学生等	数校増
3	若年者献血セミナー	高校生	数校増

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	新規	20～30
2	献血協賛企業活動推進	新規及び既献血団体	5

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(移動採血)	前回献血会場での献血協力者(過去1年間で検索)	要請者延数1000人以上(冬季における献血不足対策)
2	メールによる献血要請(献血ルーム)	複数回献血クラブ会員(血小板)	要請者延数2,000人以上
3	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(血小板)	要請者延数30,000人以上
4	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(400mL)	要請者延数1,000人以上(冬季不足対策)
5	講演会の開催	複数回献血クラブ会員及び新規登録者	年1回

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規400mL献血者確保	新規	約10%増

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

佐賀県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校生卒業献血	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	5回以上、400mL・成分献血参加者280人
2	大学・短大学内献血	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	4校2回以上、参加者1,200
3	献血教室・セミナー開催	高校・大(短)学・看護学校生	7校・参加者1,100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保。	献血未実施及び献血会場周辺企業。	新規登録30団体。
2	不足時期に協力可能な待機型の団体確保。	特に冬場の協力企業・団体。	30団体。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血のお知らせ。	複数回献血クラブ会員。	応諾者数30%
2	ハガキによる登録依頼。	年2回以上の献血者。	登録者数500人以上
3	パンフレット配布による登録依頼。	献血者	登録者数500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる依頼。	400mL献血可能者	年2回及び不足時期

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	市町成分献血の日	各市町毎に平日の成分献血者確保(血小板献血者)。	平日の確保年間200人
2	午前中の献血者確保(おはよう献血カードの適用)。	午前中の血小板確保者及び血漿献血・400mL献血者。	午前中の献血者を20人から30人と安定確保する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

長崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血者確保キャンペーンの実施	一般及び若年層	年間5回以上のキャンペーンを実施する
2	学生ボランティア研修会の実施	短大、大学生	センター主催で年1回、九州ブロック主催で年3回実施する
3	血液センター見学会の実施	PTA、高等学校	年間2回以上実施、合計参加100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規事業所及び掘起し団体の開拓	献血未実施及び献血会場周辺事業所、数年献血を実施していない事業所	月間5社以上の開拓を目標とする

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールとはがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数3,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血経験者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
2	受付時推進資材の作製	全血献血希望者	移動採血会場に設置
3	事業所等における400mL限定献血の実施	400mL献血可能者	400mL献血率を90%以上とする
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	6校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ライオンズクラブ主催献血	一般及びライオンズクラブ会員、関係者	年間3回以上実施

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

熊本県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成人式での献血推進パンフレットの配布	県内新成人(成人式参加者)	14,000人
2	高校卒業生に献血推進用パンフレット配布	県内高等学校卒業生	20,000人
3	学生献血登録者募集	県内大学生	500人
4	血Cオープンキャンパス	県内大学生・高校生	大学生主催による高校生への献血セミナー実施
5	県内全大学及び専門学校への献血推進情報誌の配布	県内大学生・専門学校生	血C情報誌(年4回)及び各キャンペーンの周知

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	広報資材(広報誌)の活用	献血協力企業及び団体	全献血会場及び団体へ年4回の配布
2	新規事業所及び団体の実施	新規事業所及び団体	年間10社(10団体)程度の確保
3	緊急要請可能な事業所の確保	通常時に1稼動60名以上見込める事業所	20社程度
4	ロゴマークの配布	献血協力企業及び団体	提供事業所を80社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
2	ハガキによる献血依頼	献血登録者、依頼応諾者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
3	複数回献血推進用パンフレット等作製	献血者	通年
4	複数回献血キャンペーン	400mL・成分献血協力者	3,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材に作製(献血へ行こう)	献血者及び献血団体等	全献血会場に設置
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	高校献血での400mL献血推進	18歳、体重50kg以上の高校生	10校実施予定

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	200mL献血の制限	固定施設及び移動採血車	需要に応じた採血、月間85名程度の採血



平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

大分県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	学内献血の推進(献血説明会の実施)	大学・短大・専門学校生(学校個別)	5校・5回(300人)
2	20歳の初回献血キャンペーン(2ヶ月間)	20歳の若者	200人
3	学推協加盟校学生対象献血セミナー	大学・短大・専門学校生	3回(150人)
4	高校献血の推進(説明会及び献血実施)	高校生・教職員	10校(県立・私立)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	10社新規登録
2	県当局からの献血協力要請	進出企業	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数150人
2	ハガキによる献血要請	①献血登録者 ②依頼対象者	応諾者数600人
3	企業・団体の年間協力回数の増加	プラス年1回	20社・団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	①献血登録者 ②依頼対象者	30,000人
2	献血処遇品の改善(四半期毎)	全400mL献血者	31,650人
3	学内400mL献血キャンペーン	大学・短大・専門学校生	2,970人
4	高校献血の推進(400mL献血対象)	400mL献血可能者及び教職員	10校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の予約推進	血小板成分献血者	午前中の献血者1日20人確保
2	キャンペーンの実施	新規及び既成分献血者	
3	成分献血者の送迎	大学・専門学校等	男性若年層献血者の引き上げ 全体比 15.8%⇒20%
4	各種キャンペーン等の周知	新規及び既成分献血者	

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

宮崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL可能者	協力者1,000人以上
2	若年層献血キャンペーン(サマー献血キャンペーン)	18～29歳の若者	協力者数800人、期間中の10,20代献血者構成比30%。
3	高校・大学・専門学校における学内献血の推進	18～22歳の若者	学内献血実施を10箇所増加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規開拓企業・団体36社
2	成分献血協力団体の拡大	既献血団体および少人数企業・団体	10社以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)100人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,000人
3	複数回新規会員募集	400mL・成分献血者	新規登録者500人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全献血者	全献血会場に設置
2	ハガキによる献血依頼	400mL可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
3	実施場所(企業・団体の年間回数、実施期間等の精査)	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血日程の決定

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

鹿児島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血おもしろゼミナール開催	小学生及び保護者	1回(4日間)開催 参加者350人目標
2	学生献血推進セミナー開催	短大、大学、専門学校生	2回開催 参加者100人以上
3	はがきによる献血要請	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者25,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業、団体の確保	鹿児島市中心に行う	新規に15団体
2	献血協賛企業、団体への推進活動	現状団体に普及	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)300人以上
2	はがきによる献血要請	献血間隔が一定期間あいた献血者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
3	電話による献血要請	献血間隔が一定期間あいた献血者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
4	実施場所の年間回数の増加	年1回実施の企業、団体	応諾者数(企業・団体)50カ所以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進パンフレット作成	400mL献血推進対象者	400mL献血推進対象者
2	献血団体育成講習会実施	各献血団体	各献血団体
3	電話による献血依頼	400mL献血可能者	血液不足時の対応
4	学内献血の強化	大学、専門学校	実施回数を増やし、男性中心に依頼

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	1稼働あたりの献血団体依頼	1稼働30人未満の配車	1稼働 400mL40人以上の献血者確保
2	固定献血会場(献血バス)への献血者送迎	献血会場周辺事業所	1稼働 400mL40人以上の献血者確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

沖縄県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血の推進	県内各高等学校	25校以上
2	学生献血推進協議会の活性化	各種学校、大学	在籍5校以上
3	献血教室の開催	小・中・高校・各種学校	献血教室20回、受講1,500人以上
4	専門学校献血の推進	県内各専門学校	20校以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	休眠協力企業、団体の復活	過去3年以上実施が途絶えている企業、団体	10団体以上
2	新規協力企業、団体の開拓	未実施の企業、団体	10団体以上
3	複数回献血協力企業、団体の開拓	年1回実施の企業、団体	15団体以上
4	街頭献血実施場所の開拓	集客力のある商業施設等	5箇所以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数200名以上
2	ハガキによる献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数3,600名以上
3	電話による献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数2,200名以上
4	処遇品の見直し	各種依頼応諾による献血者	処遇品6,000個以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	企業、団体推進時のパンフレット製作	全企業、団体	献血推進時に持参
2	企業、団体の年間実施回数、時期の精査	年3回実施の企業、団体等	採血間隔、年間採血量を考慮した日程の策定
3	建築工事現場での実施	各建築工事現場	25箇所